

“鎌倉楽しむ会”

“令和5年緑多き4月”

横浜野毛～伊勢佐木町～馬車道の散歩

- ◆ 開催日 : 令和5年4月22日（土）
- ◆ 集合場所 : JR 桜木町駅南改札口
- ◆ 集合時間 : 午前9時30分
- ◆ 解散時間 : 午後3時30分（馬車道駅）
- ◆ 参加費 : 500円（資料代、保険料含む）
- ◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担



／鉄道創業の地記念碑／野毛小路／横浜にぎわい亭／日本ガス事業発祥の地
 ／神奈川奉行所跡／岩亀稲荷／掃部山公園・井伊直弼像／能楽堂／伊勢山神宮
 ／横浜成田山／野毛山公園／吉田新田の碑／日の出町駅／美空ひばり像／都橋
 ／ハーモニカ横丁／歓楽街／伊勢佐木町通り／吉田橋関門跡／馬車道入口
 ／勝烈庵／十番館・馬水飲み場遺構／馬車道散策（解散）



マシュー・C・ペリー



久里浜の記念ペリー
提督の上陸地碑

・およそ、今から160年前には戸数100戸余りの半農半漁だった横浜村は、嘉永6年（1853）6月ペリー提督が率いるアメリカ合衆国海軍東インド艦隊の蒸気船2艘と帆船2艘を含む艦船4艘が、日本に来航したことにより、日本の歴史に大きくクローズアップされてくる。

・ペリー艦隊は江戸湾入口の浦賀沖に停泊し、江戸湾の測量を行いながら湾内に侵入してきた。目的は、当時のアメリカは最大の捕鯨国で、好漁場である小笠原諸島でマッコウクジラを捕獲し、クジラから灯油や機械油を採っていた。航海は一年以上に亘るため、燃料の薪・水・食料の調達の寄港地として日本に開国を迫った。黒船は江戸湾侵入の合図として空砲を数十発放ちながら入ってきた。最初の空砲の音には江戸の町は大混乱になったという。

・江戸幕府は、浦賀奉行所与力の中島三郎助を派遣し交渉に当たらせ、老中首座・阿部正弘は「アメリカ合衆国大統領フィルモアの国書」を受け取ることとなった。

・江戸幕府は、ペリー提督に日本国への上陸を認め、その最初の上陸地は「久里浜」であった。そして、江戸幕府の回答は一年後ということで一旦は引き揚げた。

・ペリー提督は諸外国の動きも激しくなることを予想して、半年後の嘉永7年（1854）1月に再び来航し江戸湾に侵入し横浜村沖に9艘の大艦隊で江戸幕府を恫喝し、横浜村に上陸し「日米和親条約」を締結させた。

・その後、安政3年（1856）7月にタウンゼント・ハリスが下田に赴任してくる。第13代将軍徳川家定に謁見し、安政5年（1858）に大老となった井伊頭掃部直弼が京の朝廷の勅許無しで「日米修好通商条約」を締結させてしまう。

・そして、外人の居留地として、長崎の出島を参考にして急遽、横浜村の住民を移住させ（元町へ）国際都市を目指し発展させていく。

1) JR 桜木町駅



- ・明治5年（1872）5月、品川―横浜間で仮開業した日本で最初の鉄道が開通した時に初代の「横浜駅」として開業した。9月より正式に新橋―横浜間で開業した。
- ・駅舎の設計はアメリカ人リチャード・ブリジェンスであった。
- ・その後、東海道本線の延伸に伴い「横浜駅」の名称を現在の横浜駅に譲り、大正4年（1915）に「桜木町駅に改称」された。

2) CIAL 旧横濱鉄道歴史展示ギャラリー



3) 鉄道創業の地 記念碑



- ・碑文は、「日本で初の鉄道を造るために、明治3年（1870）に鉄道資材を英国から購入し、横浜港で陸揚げされ建設が始まった。
- ・この地は2年後の同5年5月7日、この場所にあった横浜ステーションと品川ステーションの間で最初の鉄道を開業した時の、初代横浜駅の跡地である。」と書かれている。
- ・また、記念碑には、開業当時の時刻表や運賃、創業当時の横浜駅の図などが刻み込まれている。

4) 野毛小路



・幕末に横浜村を居留地にすべく東海道から横浜港までの道路を突貫工事で「横浜路」として野毛山の中腹を切通して道を造り、ここが交通の要所となった。

・その後、明治になって鉄道の開通に伴って桜木町駅（初代横浜駅）の開業や三菱重工業横浜造船所の開設などで繁華街として栄えてきた。

・東急東横線の桜木町駅が平成16年（2004）みなとみらい駅に移転してから飲食店の売り上げが激減したが、賃料も下がり、近年は女性や若者向けの店が進出するようになり約600店もの飲食店が軒を連ねている。

・毎年4月に催される「野毛大道芸」も名物になっている。

5) 横浜にぎわい座



・平成14年（2004）に開場。初代館長は玉置宏。2代目館長は地元横浜出身・在住でにぎわい座設立にも関わった落語芸術協会会長・桂歌丸師匠であった。芸能ホールは1・2階併せて391席。

6) 日本ガス事業発祥の地

・明治3年（1870）「高島易断」でも有名な、高島嘉右衛門によって、この地（当時の伊勢山下石炭蔵前）にガス会社が設立された。高島はフランス人技師アンリ・プレグランを招いて、明治5年（1872）9月、神奈川県庁付近および馬車道・本庁通りまでの間にガス街灯十数基を点灯した。

・これが我が国のガス事業の発祥である。



7) 史跡神奈川奉行所跡



・奉行所とは、現在で言えば、警察と役所を合体させたような機能を持った機関です。開港間もない横浜で専ら行政事務や外国人遊歩区域内の風俗取締り、裁判や農民・町人の出願事項の受付・処理を行っていた。設立は、開港直後の安政5年(1859)6月2日である。(この日が、現在の開港記念日に繋がっている)

・この高台の地に奉行所を設けたのは、外国人に内政を秘密にしたかった。また、万が一、外国側との変事が起きた場合には横浜の町を眼下にできる土地柄、城砦へとその機能を変えることが容易だったと言われている。

8) 岩亀稻荷



・左の写真は現在の瀟洒な「岩亀稻荷」の小さな門です。

・横浜が開港して間もない安政5年(1859)11月、太田屋新田(現在のDNAの本拠地ヨコハマ球場辺り一帯)の一角に居留地外国人の社交場として遊郭が造られた。港崎遊郭(みよざきゆうかく)と名付けられた。建築者は品川宿の旅籠屋・岩槻屋佐吉(現在のさいたま市岩槻区出身)で、遊郭を完成させた功績から港崎町の名主となった。遊郭は数軒建てたが、最大の遊郭は「岩亀楼(がんきろう)」と名付けた。

・岩亀楼から北西に2km 弱ほど離れた戸部地区には遊女が静養する寮が設けられ、その周辺が「岩亀横丁」と呼ばれるようになった。その遊女たちの信仰を集めたのが「岩亀稻荷」であった。

・文久3年(1863)。岩亀楼の売れっ子であった喜遊(亀遊とも)は、客の外国人から身請けしたいと告げられ、これを拒んで自害したという。

・この出来事は作家・有吉佐和子は、昭和45年(1970)に婦人公論に「亀遊の死」として発表した。その後、戯曲「ふるあめりかに袖はぬらさじ」という舞台劇になり、昭和47年(1972)には文学座で公演され、主演は杉村春子であった。

9) 掃部山公園・井伊掃部頭直弼像



- ・江戸時代までは海に面した高台で不動山と呼ばれていた。
- ・明治初期、新橋—横浜駅（現・桜木町駅）間の鉄道開通に携わったエドモンド・モレルなど外国人鉄道技師の宿舎が建てられ、開通後も鉄道用地として利用していたことから鉄道山と呼ばれた。
- ・明治17年（1884）に旧彦根藩士が買い取って井伊家の所有となり、明治42年（1909）6月6日、横浜開港50年記念に井伊掃部頭直弼の銅像が建立された。除幕式には、井伊直弼を開国の恩人とした銅像の建立に反発し、山縣有朋、伊藤博文、松方正義、井上馨は欠席した。
- ・以後、直弼の官位である「掃部頭（かもんのかみ）」から、掃部山と呼ぶようになった。
- ・大正3年（1914）、井伊家より横浜市へ寄付されたが、銅像は第二次世界大戦中に金属回収されたが、昭和29年（1954）再建された。
- ・園内には約200本の桜が植えられ、現在は横浜の桜の名所の一つとして賑わっている。

10) 横浜 能楽堂



- ・横浜能楽堂の「能舞台」は明治8年（1875）に東京・根岸の旧加賀藩主・前田斉泰邸に建てられ、それから、東京・染井の旧高松藩主・松平頼寿邸に移築された「旧染井能舞台」で、関東地方では最古の能舞台ということです。
- ・この能舞台が横浜に移築竣工されたのは、平成8年（1996）です。
- ・足取りを辿りますと、昭和40年（1966）染井能舞台を解体、水道橋の宝生能楽堂に保管され、横浜在住の観世流能楽師・田辺竹生が、解体染井能舞台を昭和48年に譲り受け、それを昭和54年に横浜市に寄贈する。
- ・その後昭和58年（1983）より横浜市により、能舞台の再建計画が始まり、専門家の調査研究がなされ、解体から30年の歳月を経て、見事な横浜能楽堂として再現された。

1 1) 伊勢山皇大神宮



・明治初年に国費を以って創建された神社です。神奈川県宗社、横浜の総鎮守とされています。

・横浜が国の貿易の要として開港されるに及び、人々の心を 1 つにし、外国との国柄の違いを胸に刻み、国家の鎮護を祈る事を目的に、明治 4 年 4 月 15 日に時の太政官より布告を賜り、社殿並びに境内施設が竣工しました。

・戦後、横浜にも拠点があった野田醤油(株) (現・キッコーマン(株)) は氏子総代として多額の奉納や境内の「照四海(しょうしかい)」の維持管理などから、キッコーマン関係の奉納品が飾られている。

1 2) 横浜成田山別院



・明治 3 年(1870) 高島易断の高島嘉右衛門の協力で成田山新勝寺の別院として建立された。

・御本尊は不動明王。元禄年間(1688～1703) 成田山中興開祖・照範上人が徳川家より祈願を懇囑された際、祈祷本尊とされたお不動様です。成田山の塔頭・観音院よりお移りなされた御本尊で、御祈願のお力が強い御本尊と言われています。

1 3) 吉田新田の碑



・横浜の「吉田新田」を造成した「吉田勘兵衛」の碑です。出身は摂津(現・大阪)で、寛永 11 年(1634)に江戸へ出て、材木・石材商を営み財を成します。その利益を明暦 2 年(1656)に幕府の許しを得て、吉田新田の開発へと着手します。

・数々の苦労があったが完成し「吉田新田」と名付けられた。

・4 代将軍徳川家綱から苗字帯刀を許された。

・現在も子孫が横浜にて不動産会社・吉田興産株式会社を営んでいる。

14) 日ノ出町駅



・京急線の各駅停車の駅です。開業は、昭和6年（1931）12月です。野毛動物園の最寄り駅です。至近には場外馬券売り場「WINS」がある。

15) 美空ひばり像



・横浜磯子区出身の「美空ひばり」は昭和21年（1946）NHK のど自慢に出たが、不合格だった。しかし、審査員の古賀政男には「君はもうのど自慢の段階じゃない。もう立派にできあがっている」と激励された。

昭和23年（1948）2月に、神戸松竹劇場で、山口組組長・田岡一雄に気に入られる。同年5月当時の人気歌手・川田義雄に横浜国際劇場（現・JRA WINS）公演に抜擢され、ここに出演した。その当時通ったお店が「松葉寿し」であったという。

・この銅像はお店の主人の発案で、主演映画「悲しき口笛」の姿である。舞台となったのも、この野毛界隈であった。立ち姿は、過っての活躍した「横浜国際劇場」に向かっている。

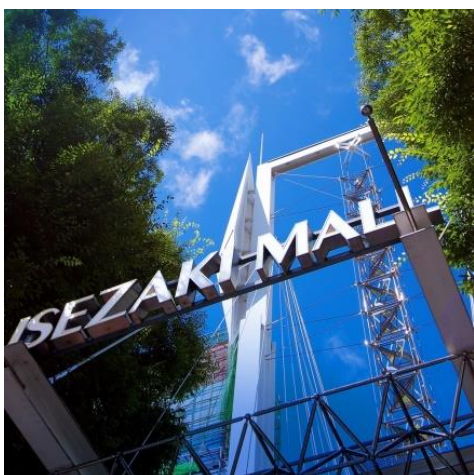
16) ハーモニカ横丁 （都橋商店街）



・桜木町から徒歩10分ほど歩いた大岡川沿いに湾曲した2階建ての建物に、昔ながらのスナックやクラフトビールが楽しめる店、ワインバーなど3坪ほどのお店が約60店が軒を連ね、夜になればハシゴ酒を楽しみにやってくる人で賑わうという。

・終戦直後の野毛界隈は、闇市が盛んな地域だった。昭和39年（1964）の東京五輪で沢山の観光客を迎えるにあたり、それまで、路上で営業していた露店を撤去し、建物に収容することになりました。そこで建てられたのが、後にハーモニカ横丁と呼ばれるこの建物です。

17) 伊勢佐木町通り



・伊勢佐木町通りは、横浜・関内駅の西方にある約 4 kmの伸びる繁華街です。

・歴史的にみれば、安政 6 年（1859）の開港後の人口急増、貿易の発展により住宅地が急務になってきました。そこで、吉田新田の田園地帯と沼地を埋め立て整備することとなりました。この埋立整備事業には多額の費用を要し、寄付を募った。多額の寄付者は、中村次郎衛・屋号は伊勢屋、佐川儀衛門、佐々木新五郎の三名であった。

・明治 7 年（1874）整備事業は完成し、この地区を「伊勢佐木町」と命名された。それは、多額寄付者の伊勢屋の「伊勢」佐川の「佐」佐々木の「佐木」を組み合わせたということです。

・昭和 53 年（1978）「イセザキ・モール」が誕生し、日本で初めての 24 時間歩行者天国が始まったという。

18) 吉田橋関門跡



・安政 6 年（1859）6 月 2 日、横浜が開港となって交易場、貿易港として栄えるにしたがい、幕府は開港場の施設の充実にあたり、陸路である東海道からの「横浜路」を開設するとともに、当時、伊勢山下から都橋付近まで入海であったことから木橋を架け、その後、本橋が吉田新田から架橋されたことにより「吉田橋」と呼ばれました。

・吉田橋が設置されてからは、当地は交通の中心地となり、その治安を図るため、橋のたもとに関門を設け、武士や町人の出入りを取り締まりました。

・関門は、当初、港側に設計されましたが、文久 4 年（1864）2 月に吉田町側に移設されました。

・関内、関外という呼び名は、このとき以来で、関内は馬車道側、関外は伊勢佐木町を指し、その関門は明治 4 年に廃止されました。

（横浜市教育委員会の説明板より）

19) 馬車道入口



・「吉田橋」関門から開港場側にできた道路で、外国人は馬車で往来した。現在は歴史的建造物が多く、また、お洒落な街並みの楽しめます。

21) 牛馬の休憩所遺構



・六道の辻通り沿いの「馬車道十番館」の前にあります。牛馬の水の補給所です。大正時代に磯子で造られたものを移設したそうです。
・十番館のケーキ、コーヒーは美味しいです。

20) 勝烈庵



・勝烈庵の暖簾の書体は、世界的に有名な「棟方志功」画伯のもので。先々代の当主が、陶芸家「浜田庄司」氏からの紹介で親しくなったそうです。

オプション

神奈川県立歴史博物館



・神奈川県立歴史博物館は、旧横濱正金銀行として、明治37年(1904)に建てられたネオ・バロック様式の旧館部分と、昭和42年(1967)の神奈川県立歴史博物館の開館にあたり増設された新館部分とからなっています。旧館部分の外観は建設当初の姿をそのまま残し、昭和44年(1969)に国の重要文化財の指定を受けています。さらに、平成7年(1995)には、近代における我が国の産業経済の発展を支えた重要な遺蹟として、国の史跡指定を受けています。

・展示は、古代から近世まで幅広く、中世の階では、鎌倉・円覚寺舍利殿(国宝の建築物)のレプリカがあり、見ごたえ十分な博物館となっています。十分な時間を摂って見学することをお勧めします。